

子どもとの会話を、「もっと」楽しもう！

社会福祉法人 大阪誠昭会 寝屋保育園 園長 田中啓昭

子どもの話に耳を傾けていますか？そして、会話を楽しんでいきますか？

日々仕事に追われ、家事に追われ、夜に子どもがようやく寝ると「ふっつ、やっと1日が終わった」という方、多いのではないのでしょうか？ 毎日お疲れさまです。

そんなあなた、気がつけば「今日は、子どもとどんな話をしたっけ？」という日もあるかもしれませんね。「学校や保育園・幼稚園のことをよく聴くよ」という方も、どんな話をしているのでしょうか？ 胸に手を当てて思い出してみてください。

「テストの点数、今日どんなことを習った、どんなことをした」など、一方的に聞いてはいませんか？ それを会話だと思っていま

せんか？「ギクッ！」とした方、それは本当に子どもが話しかかったことなんでしょうか？ ようく考えてみてください。

もしかすると、あなたが単に興味があったり、聞くことが他になかったりで、一方的に質問しているだけではありませんか？ だから子どもの答えも「別に」とか「まあまあ」など、そっけない返事が多いのではないのでしょうか？

そこで、今回は私から、子どもとの会話を「もっと」楽しむために、すぐに実践できる4つのポイントを紹介いたしますね。

①「開いた質問」をしてみよう

同じ聞くなら、まずは子どもが自ら心を開いてくれるような「開いた質問」をしてみ

はいかがでしょうか。開いた質問とは、「はい」「いいえ」などでは答えられない質問です。これだけで少しは会話に広がりが出てきますよ。

② 相づちを打ちましょう

「開いた質問」で返ってきた答えをもっともっと広げていくためには、潤滑油となる相づちが必要です。「へえ」「それで」「どう思ったの？」な



私もお話しできるんだよ！

ど、子どもの答えを広げていく相づちを打つことで、「お母さんは僕の話をちゃんと聴いてくれているんだ」と子どもが思えば結構話してくれるものです。感情を込めて、少し大袈裟なぐらいの相づちで表現してみてください。

③ 真剣に話を聴きましょう

これが最も大切なポイントです。何か作業をしながら片手間で聴いたり、子どもの質問に心ここにあらず…がはつきりわかるような生返事をしたりしていませんか？ 子どもが一生懸命に自分の思いや聴いてほしいことを拙い言葉で伝えてくる。確かに何をいつてるのか、何がいいののかよくわからない。そんなこととつてよくありますが、そんな時は逆にあなたが自分で解釈したことを「それって〜ってこと」と「な〜と子どもに聞

パパ、ママ
夢のお話し
聴いてね！



き返してみてください。そうだったとしたら、「そうだよ」と教えてくれるでしょうし、違うならまた別の表現を考えて話してくれるものです。この時に注意しなければならぬのは、子どもに「何をいつているのかわからない」とネガティブなことを決していわないことです。誰だってそんなことをいわれて、話そうという気にはならないですよ。

つまり、話を聴いてもらいたい、という気持ちを最大限に尊重して、一生懸命に話そうとしている気持ちに添って、親も一生懸命に聴こうという気持ちを伝えることが大切なのです。

④ 感想や思いを伝えてみましょう

あなたが子どもの話を聴いてどう思ったのか、感想や思いを伝えてみましょう。ポイントは、「少しだけ伝える」です。決してお説教バージョンなどにはならないことです。

少し発展した方法では、「こんな経験をしたよ〜」なんて話を子どもがしてきたら、あなたが子どもの時に同じような経験をした話などをしてあげると、子どもにもその情景がイメージできるので、うれしいぐらいの質問攻めにあってもいいかもしれませんね。「その時どんな感じだった？」「どうなったの？」など、目をキラキラ輝かせながら聴いてくれることでしょうか。

以上、簡単なポイントをお伝えしました。要は、一方的に自分が聞きたいことを聴くのではなく、子どもが聞きたいことを引き出すようにすること。真剣に話を傾けること。そして少しだけ自分の感想や思いを伝えること、です。これらを実践できていけば、子どもは自分からいろんなことを話してくれるようになります、あなたも自然に子どもとの会話が楽しくなってくるはずです。